

光輝！大鳥中生！

⑬ 今週も輝く姿が
あちこちに見られました。

ペンのキャップを落として、なかなか見つけれず困っていた友達のために、目を凝らして床を探し、「あったよ！！」とうれしそうに手渡す様子が、心がほっこりしました。

話を聞くとときは静かに集中して聞き、活動するときには積極的に活動する。そのけじめをつけられる生徒の皆さんは素晴らしいと思います。

廊下を歩く生徒たちの会話が聞こえてきました。「ヤバえ、オレ、インフルかかっちゃうかも。」「だから、マスク、手洗いするんだよ。」その通り！と心の中で叫びました。しっかり自分を守ってくださいね。換気も忘れずに…。

「だれか、この机を運んでー」「だれか、これ手伝ってー」と、頼んだ時に「はい！！」と、すぐ駆けつけてくれる君。「誰か」に、すぐ反応して動ける心をこれからも持ちつづけてほしいです。本当に助かっているよ。

二者面談期間……自分自身のことを客観的に振り返り、素直に話ができるって、すばらしいなと思いました。自分が正しい、他の人が悪いという考えの人もある現代、大切な姿勢だと思います。

3年の数学の授業で、互いに教え合う姿勢がすばらしい。休み時間も取り組むなど、さすが受験生である。

福島市の音楽発表会に参加した3年生の合唱がとてすばらしかった。どこの学校にも負けない最高に素敵な「あなたへ」でした。感動をありがとう！！

3年生は音楽室に行っていたのに、5校時の授業を集中して受けることができていて、すばらしかったです。

頼まれなくても、欠席した友人の分をカバーして給食当番の仕事をしてくれた〇〇さん。その「さりげなさ」が輝いています。

コロナやインフルが流行し、人手が足りない中で日々を送らなければなりません。そのような中で、給食の配膳台準備や給食当番の代理を当然のように快く引き受けてくれた皆さん、ありがとう。「困ったときはお互いさま」の精神が広がっていた一週間でした。

数学のワークブックの問題で「記述式」の問題があります。なかなか難しい問題もありますが、無回答でなく、学習したことをもとに挑戦したり、自分の解答が正解かわからないときに質問したりと前向きに取り組んでいます。一つ一つの積み重ねが力になります。

治った手をニコニコと見せてくれた姿がとっても嬉しかったです。心配していました。今まで、けっこう不自由だったものね。これからは、元気いっぱい頑張れるね。本当によかった。

（題字は二年三組 前田泰地さんです。）
先生方はみなさんのおまをのびしゅんよ！

日に新た



第五十一号
大鳥中学校
令和七年十月九日

みんなすばらしいぞう！



インフルエンザ注意情報

流行の懸念があります。
本学同様の場合は必ず自宅療養を。

心の解放感

スクールカウンセラー
菅原 理恵



なぜ急にわが子は話さなくなるのか？

保護者のみなさま

「以前は学校であったことを何でも話してくれたのに、最近は口数が減った」「大事なことも相談してくれない」「話しかけても『うるさい』と言うだけ」—思春期のお子さんを持つ保護者の方から、このような話をよくお聞きします。お子さんが親と話すのを避ける裏側には、成長に伴う複雑な心理が隠れています。

SCとして生徒の話を聞いていると、「親に迷惑をかけたくない」「心配をかけたくない」という言葉を本当によく聞きます。自分の悩みや困っていることを話すことで、親が過度に心配したり、すぐに解決しようと先回りしてしまったりするのを避けようとしています。これは、親の気持ちを察することができるようになった「精神的な成長」の表れでもあります。

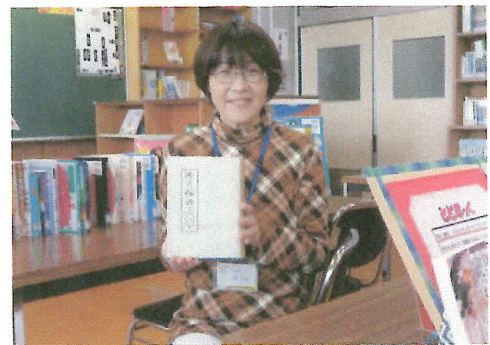
また、思春期の感情は、ジェットコースターのように複雑で激しいものです。怒り、不安、焦燥感などが混ざり合い、それを整理して言葉にするのは非常に難しいです。「話す」よりも、「話さない」という形で時間をかけて感情を処理している状態と思われます。

さらには自分自身のことや自分の問題を自分で考え、解決したい気持ちが強くなっているとも考えられます。親に助けを求める前に、まずは自分で考え、解決しようとあえて黙り込んでいることもあります。

会話が減ったとき、親がすべきことは「話させる努力」ではなく、「いつでも話せる安心感を育む」ことです。それは、聴く姿勢を態度で示すこと、そして、言葉がなくてもそばにいるという「安心感」を伝えることです。こうした「安全な場所」が家庭にあることで、お子さんは安心して自分自身を見つめ、自分のペースで成長することができます。

もっともっと本に親しむ

～第2回 学校司書
小針 久美 先生～



- ・私の大好きな本は「源氏物語」です。
- ・父の仕事の関係で転勤が多く、私は転校を数多く経験しました。
- ・転校して、まず大変なのは友だちづくりで、私の場合、図書館に行き本で読むのが習慣になり、そこから友だちづくりが始まりました。
- ・それ以来、私はどんどん本好きになり、大学も国文学に入りました。
- ・大学の講義は、本好きの私にとって夢のような時間でした。
- ・「源氏物語」は千年も前の作品ですが、現代の若者の人々の心をつかっています。
- ・皆さんも一度、手に取ってみてください。